



二松學舎 松苓会報

CONTENTS

- P2 松苓会定期総会 学生会員について
- P6 松苓会各支部活動報告
- P12 同期会、OBOG会報告
- P14 大学だより
- P15 教員免許状更新講習
- P16 あの頃の就職部
- P17 恩師からの便り 卒業生だより
- P18 会員からの便り
- P21 学生会員だより 一創縁祭 他一
- P23 アンケートのお願い 学生会員の活躍
- P24 附属高校野球部甲子園出場
訃報 編集後記

No.60 2018年9月25日
二松學舎大学同窓会広報誌

平成30年度 第23回松苓会定期総会開催

平成30年度定期総会が6月9日(日)13時から二松學舎大学九段校舎1号館1階会議室で開催された。

来賓として水戸英則理事長、菅原淳子学長、五十嵐清常任理事をお迎えし、本部役員、及び全国から36支部の支部長が参加した。

出席者は次のとおりである。

来賓

水戸英則 理事長(相談役)
菅原淳子 学長(相談役)

五十嵐清 常任理事

末吉榮三 (顧問)

神津賢一郎 (顧問)

本部

廣田克己 (会長)

新井喜義・山崎正伸 (副会長)

小林公雄 (幹事長)

常任幹事

平野光治 (神奈川県支部長)

佐藤 修・清水 登・大山由美子

神河秀春・高柳幸雄・菅原義博

志村 孝・渡辺和則・助川忠弘

幹事

山崎郁紀 (北海道地区)

宮本義孝 (東北・岩手県支部長)

辻 将一 (関東・千葉県支部長)

小島貴雄 (中部・富山県支部長)

武内昭徳 (近畿・兵庫県支部長)

平岡才二郎 (中国・広島県支部長)

大西邦美 (四国・香川県支部長)

宮崎宣幸 (九州・宮崎県支部長)

金城健一 (沖縄・沖縄県支部長)

小林孝彰・持田賢一・金井 康

星野優子・佐久間敦子・小町邦明

中原敬二

監事

島山幸治・木村誠次

支部長

増井義昭 (北海道)・柴垣博孝 (青森)

二上久芳 (宮城)・齋藤 裕 (山形)

北村 博 (福島)・沼田俊明 (茨城)

寺内 進 (栃木)・小石さち子 (群馬)

青木一弥 (埼玉)・矢澤喜成 (東京)

板山俊介 (山梨)・坂井福作 (新潟)

菅野成也 (石川)・中道佳宏 (福井)

小川直紀 (三重)・世古幸生 (大阪)

辻 一 (奈良)・明治利隆 (和歌山)

小谷章公 (鳥取)・永瀬 清 (岡山)

大倉明子 (徳島)・上田善達 (愛媛)

戸田 浩 (高知)・永淵道彦 (福岡)

黒瀬孝志郎 (長崎)・申斐啓一郎 (大分)

岡元正昭 (鹿児島)

事務局

間宮美喜

総会では中原敬二幹事の司会により、開会が宣言された。続いて前年度総会後に物故された松苓会員及び大学関係者への黙祷があった。

司会から構成員81名中、出席者59

「学生会員について」

松苓会長 廣田克己



本年度の二松學舎松苓会(以下、松苓会)の総会で、「松苓会会則」に学生会員に

ついての位置づけが正式になされました。いったい何のことか理解に苦しむ方も多かろうと思います。もう少しわかりやすく言いますと、平成14年度の卒業生から終身会員制度が導入されました。これまでの年会費制度を改め、卒業時に終身会費を納入して、松苓会正会員となる制度に変わりました。入会金は昭和34年頃から入学時に納入していたのでありましたが、この入学時と卒業時の納入金を合わせて終身会費としたわけです。

この制度を導入してから約20年が経ち、それ以前と比べて財政基盤がかなりしっかりとってきた松苓会は、年々事業を充実させてきました。一昨年は、創設以来初めての周年事業である「松苓会創設85周年記念」の式典を行うこともできました。しかし事業が安定し、拡大していく中で、時代の変化にも対応する必要に迫られ、将来も今のままでいいのかを考える必要が生まれてきました。そこ

で4年前に、特別委員会として将来を見据えた松苓会を考える「基本問題検討委員会」を設置し、将来のありべき姿を諮問しました。任期は4年で、今年度が最終答申の年になります。これまで「松苓会奨学金の貸与から給付へ」(1次答申)を実現し、今回「学生会員の会則上の位置づけ」(2次答申)が決まりました。

前述したように入会金を納入しているのに、位置づけや役割が決まっていなかった状況を改善することが目的です。これまでは同窓会誌「松苓会報」の配布やオリエンテーションでの説明くらいの取り組みでしたが、より本格的なものにすることにします。学生の皆さんに松苓会活動に参加してもらいたいと考えています。何をしてもらうか、何ができるかを現在、大学の学生組織である「学生会」と検討しています。まだ取り組み始めたばかりで、どうなるかは見えていませんが、松苓会にとって大きな刺激になっていきます。全国の会員の期待も大きく、学生会員の皆さんの動向に注目しています。

多くの方の最終学歴となるのが母校は、時代がどう変わるうが出身校であり、その仲間はかけがえのない付き合いになります。良かれ悪しかれそれは生涯ついて回るものです。母校が何をしてくれたかではなく、何ができるかを考え、一緒に活動してほしいと思っています。

名、委任状20名の合計79名との報告があり、総会の成立が確認された。

廣田会長の挨拶の後、来賓の水戸理事長から、高等教育をめぐる動向と法人が取り組んでいるN2020プランの進捗状況とN2030プランの内容等について、菅原学長からは大学の課題等について、それぞれ挨拶を含め講話があった。

新井副会長を議長に選出の後、書記に菅原義博・志村 孝の両常任幹事を指名、議事録署名人には大山由美子常任幹事、青木一弥埼玉県支部長が指名された。

議案審議

- 1 平成29年度事業報告
 - 2 平成29年度収支決算報告並びに監査報告
 - 3 「学生会員」設置に伴う松苓会会則の改正について
 - 4 平成30年度事業方針並びに事業計画案
 - 5 平成30年度松苓会予算案
 - 6 役員候補者選考委員会の設置並びに総会選出委員の選出について
- ## 諸報告
- 1 基本問題検討委員会（第2次答申を含む）について
 - 2 アンケートの実施について
 - 3 法人との連絡協議会について
 - 4 支部運営等について

議案審議

次第に沿って、議案の審議があり、1号議案から6号議案まで異議なく承認された。

3号議案の「学生会員」の設置は、基本問題検討委員会の答申を受けて、在学中から松苓会の活動に関わり、松苓会に対して親しみを持ってもらい、卒業後は正会員の資格を有して松苓会活動への積極的参加を期待する。併せて入学時に入会金を納入している在学生の松苓会における位置づけを明確にするための会則改正である（次頁参照）。

4号議案の事業方針並びに事業計画は、ほぼ前年度に準じた内容。

6号議案は、今期の役員の任期が今年度末で満了となることに伴う次



定期総会で挨拶する水戸理事長

期役員候補者選考の委員会設置に関するもの。松苓会則、及び同細則の規定に基づく委員会設置を確認し、総会選出委員の選出（3人）を総会後に行うことを承認した。

二松學舎松苓会幹事会

総会に先立って、幹事会が午前11時から開催された。本部の三役、常任幹事、幹事、監事の30名が出席（構成員43名。他に委任状11名）、総会に提案する議案についての説明とそれぞれに対する審議が行われた。

総会に提案する議案についての理解が得られ、短い時間の中で効率的に審議が進んだ。役員候補者選考委員会の幹事会選出委員の選出は、総会終了後幹事会のみで幹事会でおこなうことを了承した。



幹事会で挨拶する廣田会長

松苓会後援の大学行事ご案内
本年度も母校支援事業として、次の教育事業を後援しています。

平成三十四年度
第二十四回
二松學舎大学教育研究大会

1.期日 平成30年10月21日(日)
2.会場 二松學舎大学 九段校舎1号館
3.研究大会概要
●開会式 10時～
●第1部 講演会 10時20分～
講演者 立花洋子氏(東京大学名誉教授 教育学部)
大澤 一登 氏
演題 これからの時代の
国語科教育の方向性
●昼食・休憩 12時～
●第2部 校務部分科会 13時30分～
分科会A 小学校・国語
分科会B 中学校・国語
分科会C 高等学校・国語
分科会D 大学・国語
●閉会式 15時30分～
4.懇親会 13時30分～15時45分
会場 二松學舎大学
二松學舎大学教育研究大会実行委員会
〒102-8334 東京都千代田区九段北-16
TEL:03-3264-1579 FAX:03-3264-1379

2018年度
論語の学校
~RONGO ACADEMIA~
10月20日(土)
13:00~17:00 (開場12:30)
二松學舎大学 九段1号館2F 中洲記念講堂
入場無料
最新申込み要 10月19日まで受付 ※ただし、定員になり次第締め切り、当日は先着自由席。
新潟を「世界一幸せな」まちに
近世近代の歴史からみた、
三松中洲の「義利合一論」と
洗沢栄一の「論語と舞臺」
池田 弘氏 町 泉寿郎 教授
【関連企画】 ●国語入門 教員有志 本学文学部国語
●英語入門 石川直久 本学文学部英語
【お問い合わせ】 03-3264-1579 (受付時間 10月19日 12:00~17:00)
二松學舎大学
〒102-8334 東京都千代田区九段北-16
TEL:03-3264-1579 FAX:03-3264-1379

平成30年度 二松學舎大学主催 全国学生・生徒
文芸コンクール
作品募集
漢詩 書道 書評
応募期間 平成30年 9月1日(土)~15日(土)
二松學舎大学
〒102-8334 東京都千代田区九段北-16
TEL:03-3264-1579 FAX:03-3264-1379

定期総会後の懇親会

定期総会後の懇親会は、昨年度と同じ九段上の中国料理店「小星星」で行われた。総会参加の支部長、本部役員など40名が参加した。

新任の常任幹事、事務局長

(平成30年5月20日付)

常任幹事 渡辺和則(特)
事務局長 佐藤 修(文41)

支部長交代

(平成30年4月9日付)

宮城県 (新)二上久芳(文44)
(前)千葉 仁(文27)

役員候補者選考委員会委員

総会選出

辻 将一支部長(千葉県)
矢澤喜成支部長(東京都)
平野光治支部長(神奈川県)
幹事会選出
小島貴雄幹事(中部地区・)



総会後の懇親会

富山県支部長)

金井 康幹事(学外)

中原敬二幹事(学内)

常任幹事会選出

大山由美子常任幹事

菅原義博常任幹事

高橋映子常任幹事

二松學舎松苓会会則の改正

学生会員設置に伴う会則改正は、次のとおり。(ゴシック部分)

○第5条第1項第3号の次に、第4号を加える。

四 学生会員 本学の学部及び大学院在籍者

○第9条第2項及び第3項並びに第4項(イ)を次のとおり改める。

2 副会長は、第5条第1項第1号から第3号に規定する会員のなかから幹事会において選出する。

3 常任幹事は、第5条第1項第1号から第3号に規定する会員

のなかから会長が委嘱する。

4 幹事は、(イ) 第5条第1項第1号から第3号に規定する会員のなかから会長の指名した者

○第9条第6項を次のとおり改める。

6 監事は、第5条第1項第1号から第3号に規定する会員のなかから幹事会において選出し、

総会の承認を得るものとする。

○附則13を14に繰り下げ、次の附則13を加える。

附則(平成30年6月9日)

13 本会則は、平成30年6月9日から施行する。

学生会執行部との話し合い

定期総会で「学生会員」設置が承認されたのを受けて、廣田会長、小林幹事長が6月17日(日)に行われた学生会執行委員会主催の九段祭POPを見学した。

8月3日(金)第1回の学生会との話し合いが行われた。学生会側からは宮下凌輔会長、赤津紗来副会長が、大学側から馬淵学生支援課長が出席、松苓会からは廣田会長以下三役が出席した。

廣田会長が、学生会員設置の趣旨、松苓会活動の状況等を説明、宮下学生会長から、学生会活動の状況等の説明があった。今後継続して話し合いを続けていくこととした。

附属高校野球部甲子園出場に支援金贈呈

東東京大会で優勝し、2年連続3度目の夏の甲子園大会出場を決めた附属高校野球部を支援するため、8月3日、廣田克己会長が附属高等学校を訪問、本城学校長に支援金50万円を贈った。

**平成30年度ホームカミングデー**

開催日 平成30年11月3日(土)
会場 九段校舎1号館・2号館
作品展 11月2日 13時～16時
11月3日 10時～16時

平成30年度卒業生名刺交換会

開催日 平成31年2月23日(土)
会場 ホテルグランドパレス

(予定)

平成 30 年度 松苓会予算				
平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日				
○ 収入の部				
前年度繰越金		(単位：円)		
前年度繰越金		2,394,788		
(会費)		4,045,000		
新卒者終身会費		9,600,000		
既卒者終身会費		400,000		
小寄附金		10,000,000		
雑収入・利息		400,000		
合計		5,000		
		16,844,788		
○ 支出の部				
事業費				
松苓会報等発行				
印刷・制作費		700,000		
送付費		800,000		
小寄附金		0		
卒業生交流事業		1,500,000		
ホムカミングデー		800,000		
卒業生名刺交換会		300,000		
免許状更新講習交流会		100,000		
小寄附金		1,200,000		
卒業生支援事業				
支部運営補助費		1,500,000		
支部報発等補助費		300,000		
支部強化等補助費		100,000		
同小期会費		100,000		
合計		2,000,000		
母校支援事業				
教育振興資金		1,000,000		
教松会奨学金		150,000		
松小会奨学金		500,000		
合計		1,650,000		
在学生支援事業				
学園祭活動補助費		100,000		
課外教育費		200,000		
卒業生会費		800,000		
卒小生会費		800,000		
小期会費		300,000		
合計		2,200,000		
運営費		8,550,000		
会費・議交通費		200,000		
旅職通備印刷品		2,300,000		
通信品		350,000		
印刷品		150,000		
消耗品		250,000		
印刷品		350,000		
消耗品		50,000		
印刷品		150,000		
消耗品		10,000		
印刷品		50,000		
消耗品		20,000		
合計		3,880,000		
特別会計				
周年事業積立金		1,000,000		
終身会費		2,624,000		
特別会費		3,624,000		
合計		790,788		
		16,844,788		

平成 30 年度 松苓会特別会計予算				
1 松苓会基金				
		(単位：円)		
平成 29 年度からの繰越		2,000,330		
利息		13		
合計		2,000,343		
2 周年事業積立金				
(収入の部)				
平成 29 年度からの繰越		755,945		
平成 30 年度繰入		1,000,000		
利息		10		
合計		1,755,955		
3 終身会員積立金				
(収入の部)				
平成 29 年度からの繰越		66,597,588		
平成 30 年度繰入		2,624,000		
利息		3,800		
合計		69,225,388		
(支出の部)				
終身会員サービス費(会報 61 号、印刷・制作費、発送費)		1,550,000		
手数料		864		
合計		1,550,864		
4 松苓会奨学金				
(収入の部)				
平成 29 年度からの繰越		7,187,267		
平成 30 年度繰入		500,000		
平成 30 年度貸与返還金		792,000		
利息		55		
合計		8,479,322		
(支出の部)				
平成 30 年度給付奨学金		930,000		

会計監査報告書

平成 29 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成 30 年 4 月 24 日

二松學舎松苓会監事

畠山 幸治

㊞

二松學舎松苓会監事

木村 誠次

㊞

平成 29 年度 松苓会収支決算書				
平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日				
○ 収入の部				
前年度繰越金		(単位：円)		
前年度繰越金		3,099,709		
(会費)		3,740,000		
新卒者終身会費		9,750,000		
既卒者終身会費		310,000		
小寄附金		10,060,000		
雑収入・利息		635,000		
合計		5,277		
		17,539,986		
○ 支出の部				
事業費				
松苓会報等発行				
印刷・制作費		1,234,440		
送付費		715,172		
小寄附金		0		
卒業生交流事業		1,949,612		
ホムカミングデー		482,477		
卒業生名刺交換会		300,000		
免許状更新講習交流会		67,252		
小寄附金		849,729		
卒業生支援事業				
支部運営補助費		1,218,496		
支部報発等補助費		277,615		
支部強化等補助費		0		
同小期会費		50,000		
合計		1,546,111		
母校支援事業				
教育振興資金		1,000,000		
教松会奨学金		150,000		
松小会奨学金		500,000		
合計		1,650,000		
在学生支援事業				
学園祭活動補助費		100,000		
課外教育費		200,000		
卒業生会費		723,602		
卒小生会費		793,000		
小期会費		1,816,602		
合計		7,812,054		
運営費				
会費・議交通費		151,257		
旅職通備印刷品		1,866,086		
通信品		312,000		
印刷品		110,228		
消耗品		189,172		
印刷品		288,598		
消耗品		43,720		
印刷品		124,611		
消耗品		0		
印刷品		32,472		
消耗品		0		
合計		3,118,144		
特別会計				
周年事業積立金		1,000,000		
終身会費		2,665,000		
特別会費		3,665,000		
合計		550,000		
		15,145,198		

平成 29 年度 松苓会特別会計決算書				
1 松苓会基金				
		(単位：円)		
平成 28 年度からの繰越		2,000,317		
利息		13		
合計		2,000,330		
2 周年事業積立金				
(収入の部)				
平成 28 年度からの繰越		4,756,645		
平成 29 年度繰入		1,000,000		
利息		164		
合計		5,756,809		
(支出の部)				
創立 140 周年記念事業に寄付		5,000,000		
手数料		864		
合計		5,000,864		
○収支残高		755,945		
3 終身会員積立金				
(収入の部)				
平成 28 年度からの繰越		64,735,752		
平成 29 年度繰入		2,665,000		
利息		3,721		
合計		67,404,473		
(支出の部)				
終身会員サービス費(会報 59 号発送費 1 回分)		806,021		
手数料		864		
合計		806,885		
○収支残高		66,597,588		
4 松苓会奨学金				
(収入の部)				
平成 28 年度からの繰越		6,391,212		
平成 29 年度繰入		500,000		
平成 29 年度貸与返還金		296,000		
利息		55		
合計		7,187,267		
(支出の部)				
平成 29 年度給付奨学金		0		
○収支残高		7,187,267		

平成 29 年度会計収支決算は以上のとおりです。

平成 30 年 4 月 24 日

二松學舎松苓会会長

二松學舎松苓会事務局

廣田 克己

㊞

間宮 美喜

㊞

松苓会各支部活動報告

(出席・参加者欄は敬称略)

北海道支部

◆支部総会 支部長 増井義昭

松苓会北海道支部総会が8月18日18時より、札幌市中央区の居酒屋「緋焰」にて開催されました。

当日は、本部より小林公雄幹事長にご出席いただきました。また、前支部長の奥村悠二郎氏(文36)や今春定年退職された花木弘氏(文49)、佐賀敦司氏(文49)など支部会員9名が出席し、総勢10名での総会となりました。

今年度の総会では、20余年にわたり事務局長を務められた山崎郁紀氏(文36)の退任に伴う役員改選が行われました。新事務局長に若松顕仁氏(文56)が選出され、満場一致で承認されました。

また、佐賀敦司氏(文49)には副支部長として就任いただき、増井支部長をサポート



札幌市・居酒屋「緋焰」にて

していただくことになりました。新体制のもと、ますます活発な支部活動を展開して参りますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

また、平成29年度決算及び30年度予算案も承認されました。皆様より会費や通信費などのご協力をいただき、健全財政のもと運営しております。感謝申し上げます。

さて、4年ぶりに来道いただきました小林幹事長とは、他府県の各支部の取組や、役員の後継育成などの話題で盛り上がりました。また、甲子園第100回記念大会への出場を決めた附属高校野球部に関する「新聞の号外」や応援のために作成した「うちわ」をいただきました。ありがとうございました。

支部総会、懇親会を終えた会員一行は、小林幹事長をお誘いして北海道名物として定着しつつある「シメパフェ」を食しに、札幌駅地下街にある老舗甘味処「サンローゼ」へと歩き出したのであります。

(参加者)

来賓 小林公雄(本部幹事長 文38) 増井義昭(文39)・山崎郁紀(文36) 奥村悠二郎(文36)・花木弘(文49)

佐賀敦司(文49)・若松顕仁(文56) 永田哲之(文65)・富永貴之(文65) 佐々木伸(文74)

◆支部報発行

○第57号 平成30年7月20日発行

・支部会員の異動

・叙勲受章おめでとうございます。

・平成30年支部新年会を開催しました

・平成30年度支部総会のご案内

・大学トピック

今年度も道内から入学しました 九段5号館利用開始

青森県支部

◆支部総会

支部長 柴垣博孝

本年度の青森県支部の集いは、8月4日(土)に八戸プラザホテルにおいて開催されました。当日は夏とは思えないほどの涼しさ。とは言え、青森市ではねぶた祭が開催され、八戸市では三社大祭(後夜祭)が開催されてい

ましたので、その熱気に誘われて支部長挨拶の前から盛り上がりつつありました。今回は、



八戸プラザホテルにて

弘前・五所川原方面から中道幸子さんと齋藤篤志さんが、また、むつ市からは山口ゆり子さんと阿部俊一さんが参加して下さいました。特に、中道さんと齋藤さんから、八戸三社大祭も見られてとてもよかったとの言を頂き、この上なく嬉しく思った次第です。

支部長挨拶の後、自己紹介を行いました。今年は3分以上は話すという事にしましたら、20分以上お話しされる方も出て、また、話し足りない方も出て大いに盛り上がり、終了予定時刻が大幅に伸びるほどでした。また、今年は鴨沢和喜さんと中道幸子さんが二松學舎に入学してから50年目の節目に当たること。お二方には、誠にめでたい節目に参加していただいたことになりました。

なお、参加の方々から、地方出身者が極端に少なくなったこと、また、青森県からの在学者が14名しかいないことに対する憂慮の声が挙がりました。しかし、現時点では有効な手立てがないということで嘆息も。二松學舎が、東京にある地方大学にならないようにするにはどうすればいいのか。時代の流れに抗うことの難しさは承知の上で、県支部としても無い知恵を絞りながら少しでも寄与できればと思っています。

来年度は、8月3日(土)に八戸プラザホテルで開催する予定です。皆様の御参加を願います。なお、今年度も県支部報を発行する予定です

す。

〈参加者〉

山口ゆり子(文39)・鴨沢和喜(文41)
中道幸子(文41)・大庭文武(文42)
柴垣博孝(文44)・齋藤篤志(文49)
佐々木周子(文50)・阿部俊一(文53)
八木田二義(文64)・長野賢司(文64)

岩手県支部

◆支部総会 支部長 宮本義孝

平成30年7月22日(日)
於「サンセール盛岡」

〈参加者〉

山崎正伸(松苓会副会長 文41)
小山尊史(文27)・木村雄次(文31)
伊藤慶子(文38)・目黒 泰(文38)
川村敏明(文40)・高橋良光(文41)
高橋廣至(文46)・藪 敏裕(文51)
宮本義孝(文32) 以上10名

これまでの支部活動は、総会・懇親会の開催と支部報発行の二つでした。他に計画を立てても予算的にも労力的にも実行に移す力が小支部にはありません。

けれど、今回は会員の内から新しい動きが出てきました。

町の要請で図書館事業の活性化に携わっている支部会員が、働きの一環として県立博物館の館長である会員(高橋廣至氏)に講演会の講師を依頼しました。

また、地域の歴史文化を学ぶ「ふるさと大学」の運営に係わっている会員も、来年の集まりには博物館館

長をお呼びするそうです。

総会に集まり懇親会で忌憚のない意見を交し合う内、仲間意識も深まり、気安くお願いしたり引き受けたりでできる雰囲気が出てきたものと思われまます。

なお、支部会員には博物館だけでなく、生涯学習、レクリエーション活動、郷土史研究などにおいてエキスパートな人たちが沢山おられます。それに今回からは岩手大学教授である会員(藪氏)も参加してくれました。今までは、何事にも支部長が中心になって行くと云う発想でしたが、このように銘々の会員が、それぞれの立場で、他の会員の特性を活用し、自分の仕事の領域を広げていくのも支部活動の一つだろうと思います。小さな動きですが、大事に育てる価値のある動きです。

支部報発行

○第79号 平成30年4月19日

・佐佐木鍾三郎先生小伝

○特別号 平成30年7月22日発行

・支部会員の近況

○第80号 平成30年8月2日発行

・支部総会・懇親会を終えて

○第81号 平成30年8月24日発行

・大星栄子さん突然のご逝去

山形県支部

◆支部総会

支部長 齋藤 裕
平成30年6月23日(土) 14:00
18:00

山形市 山形国際ホテル

今年の総会は10回目という節目にあたり、松苓会副会長の新井喜義氏、二松學舎大学文学部国文学科教授原由来恵氏を来賓としてお迎えし、山形市で開催しました。会員の参加は8名でした。

総会の後に、原教授の「『歌枕見て参れ』私見」という演題で講演いただきました。原教授は、清少納言の恋人といわれる藤原実方が「奥州へながされたり」という平家物語の記述に疑問を持たれ、歯切れのよい潑刺とした語りで、その疑問を裏付ける根拠を挙げながら、実方は左遷ではなかったとの私見(仮説)を述べられました。学生時代に戻ったような、懐かしくも楽しい気持ちにさせていただいた、80分でした。懇親会では新井副会長より、群馬と山形の縁のある同窓生として、群馬県教育界で功績のあった故小松恭己さん(専2 山形県出身)の紹介がありました。また、両氏からは支部報への寄稿を快諾いただき、感謝してい



山形国際ホテルにて

るところです。

今回の総会は原、新井両氏をお迎えし、充実した楽しいひとときを過ごさせていただきました。今後は自力で、参加したくなる総会、読んでみたくなる支部報を目標に、会員の方の知恵をお借りしながら支部運営をしていきたいと思ひます。

〈参加者〉

来賓

文学部教授 原由来恵(文63)
松苓会副会長 新井喜義(文37)

支部会員

齋藤 裕(文38) 樋口栄寛(文39)
斎藤善明(文48) 斎藤智子(文48)
馬場重行(文48) 今野紀生(文55)
西田裕子(文55) 佐藤順子(文56)

群馬県支部

◆支部報発行

○第47号 平成30年3月1日発行

・新春を迎えて

・東京支部総会に参加して

平成30年度総会・新年会開催
松本茂治

・松苓群馬支部文学散歩 高柳 薫

・続・群馬に来て知る二松學舎との縁 佐藤 桂

縁

・平成29年度事業報告

・平成29年度会計報告

・第6回群馬松苓会書展報告

・支部会費納入方法について

千葉県支部

◆総会

副支部長 前田康晴

平成30年8月4日(土) 午後1時20分より、「千葉県文化会館」にて、平成30年度二松學舎松苓会千葉支部総会を開催いたしました。参加者は、22名と、昨年度よりも4名多い同窓生の出席をいただきました。

さて、総会は、田邊義博副支部長の開会の辞から始まりました。次に、逝去されました二松學舎大学元理事長・佐佐木鍾三郎氏、西日本豪雨災害により犠牲となられました百田氏並びに、今年一年の間に御逝去された同朋を偲び、一分間の黙禱を致しました。続きまして、辻将一支部長から御挨拶と来賓の御紹介を致しました。今回は、多くの議事があるため、来賓の方々の御挨拶につきまは懇親会においてゆつくり戴くことと致しました。その後、土屋誠氏を議長に選出し、議事に移りました。議事は、辻将一支部長から(1)平成29年度活動・決算報告、(2)平成30年度活動計画・予算案についての説明があり、それに対する質疑応答の後、これらについての了承がなされました。次に、(3)役員人事についての報告・依頼・打診がありました。辻支部長から、次期千葉支部長を千葉県立九十九里高等学校長・河野千津子氏(文49回)に、引き継いで戴きたいとのことでした。河野氏にはそれを了承して戴きまし

た。ただし、まだ現職であるため、今年度は、幹事という職でお力添えを戴き、その間、辻支部長から、時間をかけて引継ぎをして戴くこととなりました。

辻支部長は、前千葉県支部長・大山徳高氏(二松學舎大学元理事長)からバトンが渡され、10年間、千葉県支部長として尽力なさいました。それは、まさに獅子奮迅のご活躍でございました。

その後、記念講演として二松學舎大学文学部・原由来恵教授より、「禁じられた恋『伊勢物語』」と題し、約1時間30分のお話を賜りました。講演は、初段から六段までの原文を用いながら、丁寧にお話しただきまし

た。それは、「伊勢物語」に用いられている仕掛け(レトリック)を説き明かしながら、「『伊勢物語』の歌物語としての面白さ」と、読み手に与える連想と展開のレトリックの面白さについて紹介する」というものです。講演終了後も、出席の会員から多



千葉市「千葉県文化会館」にて

くの質疑があり、盛会のうちに終了しました。

記念撮影の後、午後4時20分より、ここ数年ご協力を戴いている竹内恵子氏(文34)経営の「喫茶ボンヴィル」にて、懇親会を開催しました。本年も午後10時近くまで、過ぎゆく刻を忘れての歓談でありました。今回も松苓会本部や、遠く東京支部・神奈川支部からもご参加いただき、大いに盛り上がりました。衷心より感謝申し上げます。

〈来賓〉

松苓会会長 廣田克己(文38)
松苓会幹事 持田賢一(文40)
神奈川支部長 平野光治(文40)
東京支部長 矢澤喜成(文50)
東京支部幹事 片山聖英(文50)
東京支部監事 渡辺大雄(文65)

〈講師〉

文学部教授 原由来恵(文63)

〈参加者〉

竹内恵子(文34) 大山徳高(文36)
木村行幸(文38) 小林政明(文39)
藤本敏雄(文40) 廣川 實(文40)
今城昭二(文41) 行木康夫(文44)
辻 将一(文45) 田邊義博(文46)
河野千津子(文49) 前田康晴(文49)
土屋 誠(文50) 金子和男(文57)
松本眞月(文84)

◆支部報発行

○第22号 平成30年3月1日発行

・卒業式の式歌から 辻 将一
・愚魯の戯言 藤本敏雄
・千葉県支部総会報告

・平成28年度活動報告
・平成29年度活動計画
・千葉県支部規約
・「当たり前に戻しませんか」
行木康夫

東京都支部

◆支部総会

支部長 矢澤喜成

平成30年7月21日(土)

於二松學舎大学九段校舎1号館

片山聖英幹事長の司会により、矢澤支部長の挨拶の後、神河秀春常任幹事を議長に選出した。中原敬二事務局長による活動報告・計画、会計報告・予算案、渡辺大雄監事による監査報告と議事は進み、最後に、高橋映子常任幹事より、「復活！歴史文学散歩 おくの細道から330年 芭蕉を偲ぶ下町・江戸散策」墨田区・江東区編」の案内があった。

講演会後の懇親会は、13階ラウン

ジで行われた。菅原義博常任幹事の司会により、廣田克己松苓会会長・平野光治神奈川支部長・辻将一千葉支部長・高柳薫群馬県副支部長に



大学九段1号館にて

御挨拶戴き、楽しい一時となった。

講演会

演題 「響き合う言葉と想い」

講師 俳優 芦田昌太郎氏

司会 片山聖英幹事長

イケメンの好青年たる芦田昌太郎

氏は、名優の芦田伸介氏を祖父に、松山英太郎氏を父に持ち、そうした家庭環境から、貴重な御話を伺えた。フランスでの日本語教師の御経験のある芦田氏は、ジェスチャーによるコミュニケーション力を競い合うゲームで、講演の最後を盛り上げて下さった。

（参加者） 36名

渡辺和則前学長（特別会員）

廣田克己松苓会会長（文38）

新井喜義松苓会副会長（文37）

平野光治神奈川県支部長（文40）

辻将一千葉県支部長（文45）

高柳薫群馬県副支部長（文47）

畠山幸治（文37）生垣しげ子（文38）

土田京子（文41）星野優子（文42）

家永 修（文44）大山由美子（文47）

神河秀春（文47）高柳幸雄（文49）

大淵俊明（文50）片山聖英（文50）

矢澤喜成（文50）野口悦子（文51）

菅原義博（文53）高橋映子（文53）

中原敬二（文62）原由来恵（文63）

渡辺大雄（文65）荒屋陽子（文85）

高橋隆子・津田千代子・外川ゆり子

（以上3名準会員）

持田賢一（埼玉県支部 文40）

佐藤 馨（神奈川県支部 政修5）

ほか一般参加者 6名

◆支部報発行

○第64号 平成30年9月1日発行

・残暑御見舞申しあげます

・追悼文・佐佐木鍾三郎先生の思い出

・平成30年度支部総会開催

・講演会「響き合う言葉と想い」

・平成29年度活動報告

・二松の風景「離れていても繋がっている」

・歴史文学散歩「芭蕉を偲ぶ下町・江戸散策」へのお誘い

・原由来恵

・矢澤喜成

・片山聖英

神奈川県支部

◆支部総会

支部長 平野光治

平成30年8月12日（日）14時30分

より、かながわ県民サポートセンターにて、第41回二松學舎松苓会神奈川支部総会が開催されました。中

川俊一郎副支部長の開

会の辞に始

まり、支部

長挨拶後、

来賓の廣田

克己松苓会

長、矢澤喜

成東京支部

長よりご挨拶、ご祝辞

をいただきました。



かながわ県民サポートセンターにて

前田明三浦地区長の司会により、網野将美地区委員を議長に選出し、議事に入りました。

平成29年度事業報告、同会計報告

が小林孝彰事務局長からあり、片桐

佐和子監査の監査報告を受けて承認

されました。平成30年度事業計画、

同予算案も拍手で承認されました。

続いて小林孝彰事務局長（川崎地区長）より、文学歴史探訪の概略が

提案されました。

その他の案件として東京支部主催

の歴史文学散歩の紹介があり、神奈

川支部事業の今後の方向性や総会

のあり方、参加の皆様のご意見を伺

いました。

総会終了後、地域活動支援センタ

ー白根工房所長、永井明様による講

演会が「地域作業所と歩んできた20

年を振り返って」とのご演題のもと

に開催されました。開所に向けての

思いや作業所の成り立ち、家族やセ

ンターに通う人々との意思疎通や将

来に向けての課題等、現実を見つめ

た所長としての思いが語られました。

知らないことの多さと無理解を

恥じ、無知の恐ろしさを知る講演と

なりました。

東京支部より、時間ができたと急

遽ご参加いただいた星野優子副支部

長、生垣しげ子様、体調のすぐれぬ

中でもご参加いただいた支部会員の

皆様に深く感謝申し上げます。

懇親会では附属高校の甲子園出場

及び初戦勝利の喜びとともに参加者

全員に一言いただくなど、大変楽しく和やかな一時を過ごすことができました。

（参加者）

来賓等

本部 会長

本部 副会長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

東京支部 支部長

廣田克己（文38）

山崎正伸（文41）

矢澤喜成（文50）

星野優子（文42）

生垣しげ子（文38）

松丸由文（文31）

平野光治（文40）

中川俊一郎（文43）

片桐佐和子（文57）

小林孝彰（文38）

前田 明（文48）

網野将美（文64）

浅居美智子（文33）

伊藤文雄（文45）

藤井隆晴（文47）

佐藤 馨（政修5）

長野県支部

◆支部総会

幹事 石川麻貴

平成29年度長野県支部総会が、去

る7月28日（土）にホテル信濃路（長

野市中御所岡田町）において開催さ

れました。

大学関係者として、新井喜義松苓

会副会長、高野和基副学長をお迎え

し、関保典支部長をはじめとする、

県内同窓5名を含め、7名の参加と

なりました。

総会では、関支部長の挨拶のあと、新井喜義副会長のご挨拶をいただき、ご趣味である山登りの関係で、長野県とは非常にゆかりがあるお話を伺い、長野県民として大変うれしく思いました。

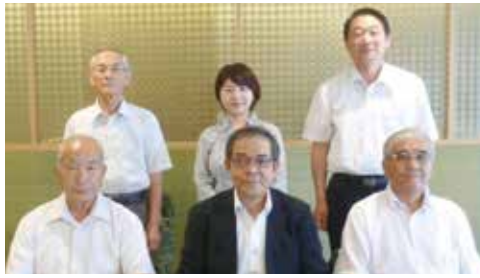
議事については、平成29年度活動報告、会計報告、さらに平成30年度予算案、及び役員改選案が満場一致で承認されました。

役員改選においては、今後の体制についても意見が交わされ、支部総会への出席者数をいかに増やすか、開催場所や開催時期についても話が、及びました。

ご講演では、副学長でもあり、国際政治経済学部教授の高野和基先生より、「現代日本の政治史」と題したご講演をいただきました。

まず、平成の政治を振り返ると、「混乱・混沌」というキーワードで語られることが多い、という話から始まりまし

た。時の内閣、政権与党を見ながら、55年体制の終焉、非自民の連立内閣、民主党的勢力拡大、自民党政権の迷走、短命内閣、と平成



長野市「ホテル信濃路」にて

の政治を駆け足で振り返りました。

中でも55年体制下の政治決定方法が、現在では大きく変わったが、大切なことは、「何を」決めるかが大切で、この国の未来をどのようにしていくかを決めていくことが大切である、と結んでいただきました。

例年の文学講義とは違い、日頃の身近な政治についてのご講演は大変興味深く、傾聴いたしました。

講演後の懇親会は、和やかな雰囲気のもと、大いに盛り上がり、楽しいひと時となりました。ここでも今後の支部会の在り方に話が及び、新井副会長よりSNSの活用事例や、他支部の状況のお話を伺うことができました。長野県支部としても取り組めることがあれば是非実施していきたいと、思いを新たにしました次第であります。話題が尽きることなく、一年に一度の支部会は大変貴重な時間となりましたこと、心より感謝申し上げます。

◆支部報発行

○第29号 平成30年6月20日発行

- ・ 論語の君子とは 関 保典
- ・ 「消せない電話番号」 杉村修一
- ・ 梅の実の生る候に 牧角悦子
- ・ 須坂藩城下町・北斎ゆかりの町 清水 登
- ・ 小布施を巡って
- ・ 平成30年度文学散歩
- ・ 長野県支部総会のお知らせ

近畿連絡協議会

◆松苓近畿創設70周年記念総会

事務局長 齋藤 衛
平成30年8月18日(土) 午後2時
開会 会場 大阪 千日前 鳥よし本店

「年々歳々人同じからず」のことばがある。開会にあたって物故者並びに西日本水害の犠牲者への深甚なる想いを痛く胸にして一同が黙祷を捧げた。挨拶に立った末吉代表は改めて、「近年に接したご訃報の一人おひとりの顔が浮かびます。今日の創設70年の記念日。その道程(みちのり)を思うに『お世話になりました。ありがとうございます。』の気持ちに禁じえません」と述べ、15人を数えるご参会の方々にこの猛暑の中のご足労に感謝と感激を伝えられた。

お迎えした本部の廣田会長は、「今、母校が世間に有用な人材を送る教育環境諸条件の改善と充実に拳学体制で取り組み、今春の入試に欠員を出すことな



大阪市「鳥よし本店」にて

りの物心の助力をいたしております。また、全国区大学の伝統の維持高揚を念じ、在学生諸子に学生会員の立場で松苓会との共同活動を試行し、卒業後の地方支部の活動に活性の灯になつてほしいと念願をいただき本部活動の枢要議題に励んでいます。近畿の応援に期待します。」とのお言葉があり、理事長代理でご出席の五十嵐常任理事は「教育環境の充実と改善に『九段の地への二松集約事業』は計画の大半を終了し、附属の高中の施設と実学の実践充実を」。高野副学長は「他には席を譲らない『国語・漢文の二松』の実力を維持、国際政経・国際経営・都市デザイン各学科内に生き、役立ちものとしてその看板があせるようなこととはしません」。一同、よかつたとの息づかいが耳に伝わった。

三重県支部長小川直紀さんの高らかな乾杯の音頭で懇親の幕を開く。一同暑さも飛ぶまでの爽快なる和気が「松竹の間」を満たし、閉会の言葉に立った奈良県支部長の辻一真さんが「心と身」を説き、その調和あることゆえの人生であつてほしいと結んだ。

総会開催期日の変更

近畿支部の創設は昭和23年8月15日に旧制の専門学校が新制の大学に昇格する機に、初代支部長に就任された専門1期生の黒川喜久郎さんのもとに11名の者が集まって産声を挙

げ、その折、新年互礼会開催に黒川

支部長は毎年正月2日に自宅を開放

することとした。母校から学長らが

参加し、年々参加者が増える中で同

学の士が母校の隆昌に意見を述べ、

同士の親睦と研鑽を深め、昨年の69

回の互礼会に至る間、初代支部長の

好意と期待を継承維持発展を心掛け

円滑な母校との連携を図る中で母校

発展への寄与に微力を尽くして参り

ました。この度の70回の節目に立っ

て、諸般を考慮し、近畿支部創設の

日を定期的な集會日に変更すること

に致しました。今後は、8月15日前

後の集まりやすい日に、松苓会近畿

連絡協議会総会を開催することと致

します。

〔参加者〕

来賓

廣田克己 松苓会会長

五十嵐清 法人常任理事

高野和基 二松學舎大学副学長

支部会員

〔奈良県〕

末吉榮三 (専12)・辻 一真 (文39)

木下善國 (文39)

〔三重県〕

小川直紀 (文44)・加藤武俊 (文49)

〔兵庫県〕

森川和謙 (文44)・竹内昭徳 (文47)

〔大阪府〕

関岡昌子 (文42)・世古幸生 (文44)

齋藤 衛 (文49)

〔和歌山県〕

明治利隆 (文47)・水本哲也 (文49)

◆松苓近畿創設70周年記念会報

○平成30年8月18日発行

・お陰さま、感謝の気持ちに尽きる

70年間

・70周年を祝う

・祝 辞 理事長 水戸英則

・近畿連絡協議会70周年に寄せて

松苓会長 廣田克己

・三重県支部活動状況

・滋賀県支部状況

・松苓近畿創立70周年にあたって

・完全退職 齋藤 衛

・いま出来ることをやる 世古幸生

・京都府支部の現況 武内昭徳

・10年ひと昔 廣田康男

・創設70周年を寿ぐ 辻 一真

・二松學舎松苓会近畿支部概要 明治利隆

・知名度

香川県支部

◆総会 支部長 大西邦美

期日 平成30年8月25日 18時

場所 SAKÉ DINING またの (高

松市西の丸町)

3年ぶりとなる今回の総会・懇親

会は、松苓会本部より会長廣田克己

氏をお迎えして支部会員4名とともに

に開催しました。

事業報告、会計報告の後、会則の

一部変更を行い、支部活動の活性化、

と参加意識を高める方策について意

見交換しました。特に、文学部・国

際政治経済

学部の両卒

業生が同窓

会に参加し

やすい行事

にするため

の工夫につ

いて意見を

交換しまし

た。

そこで、

幹事会を定

期開催する

こと、両学部の卒業生が学生時代を

懐かしみ、学び直しができるといふ

教養講座と懇親会を同日開催するこ

となど、具体的な計画が提案されま

した。また、SNSを利用した支部

会員の書道展、書籍出版などの紹介

や、松苓会本部ならびに支部間の連

携がはかれる工夫も必要だという建

設的な意見交換が行われました。次

回の開催が楽しみになった有益な総

会となりました。

懇親会の良さは、学生時代の思い

出話に止まらず、仕事や地域活動の

中での人的結びつきがあったことを

再発見でき、改めて親しみが増すこ

とです。今回は少人数でしたが、本

音を交えて積極的な意見交換もで

き、大いに懇親を深められた一時で

した。

〔参加者〕

来賓 廣田克己 (松苓会長)



高松市「SAKÉ DINING またの」にて

支部会員

大西邦美 (40) 中條敏雄 (50)

佐藤宏一 (55) 吉野孝子 (56)

大分県支部

◆支部総会 支部長 甲斐啓一郎

8月25日 (土) 午後5時半より大

分市府内町の郷土料理「こつこつ庵」

にて松苓会大分県支部総会を開催。

参加者7名。

経過報告で松苓会第23定期総会

の内容について報告。

松苓会会則を改正し学生会員を設

けることについて。在学中から松苓

会の会員であることを意識させるこ

とは卒業後に松苓会の集いに参加す

る人が増えることにつながるのでは

ないかと期待する声多数でした。

関東甲信越出身者が在籍する学生

の9割近くを占め、西日本からの入

学生は激減しているという状況につ

いて。二

松學舎が

素晴らし

い大学で

あること

をもっと

アピール

していく

ことが必

要である

という意

見に一同



大分市「こつこつ庵」にて

田中伸先生ゼミ総会の報告

金井 康(文41)

秋の気配が漂いはじめた9月1日(土)、二松學舎大学九段1号館13階ラウンジにて、11時30分から田中伸先生ゼミ総会を開催しました。

敬愛する田中伸先生は、平成3年2月8日に他界されました。享年71。27年前のことです。

北海道で旧制中学校を卒業されて上京、二松學舎専門学校に学ばれました。戦時下の法改正で半年の繰り上げ卒業となり、早稲田大学に進学されましたが、直ぐに学徒出陣。復員(陸軍少尉)と同時に復学され、早稲田大学文学部大学院修了。昭和34年二松學舎大学助教授、同41年教授就任。永く母校に勤め後輩に当たる学生の教育を専らにされました。近世文学ゼミ担当25期、活気も覇気も学問的厳しさも備える素晴らしいゼミでした。薫陶を受けたゼミ卒業生は415名に上ります。

先生はご存命なら数えで白寿をお迎えです。その機に、最初にして最後のゼミ総会が企画され、38名が参集しました。



大学九段1号館13階ラウンジにて

全員50の齢を超えてはいても、共に先生の警咳に接して卒業し、社会で一定の責任を担ってきた者同士、先生を偲びつつ久闊を叙し、学生時代を懐かしむ一時を過ごしました。ゼミ同期会の開催を相談する声も、そこかしこから聞かれました。

総会は、発起人代表の廣田克己さんによる挨拶、総会開催の経緯説明、発起人紹介、乾杯、田中伸先生の思い出など、盛会裡に進み、ゼミ名簿を今後は松苓会に移管する件や会計報告も含め、14時30分散会。

大学から2019大学案内等最新情報の提供があり、松苓会からは助成金一万円を頂きました。懇親会では、二松學舎名入りの仁(白ワイン)、愛(赤ワイン)、松が枝(米焼酎)、松風(菓子)が彩りを添えて好評でした。

また、小冊子『田中伸先生を偲ぶ経歴・業績目録』(編集田中伸先生を偲ぶ会制作 勉誠出版)が配られました。残部は松苓会室に預けてあります。ゼミ同期会などを開く折には参加者にお配り下さい。

なお、ゼミ総会の準備に当たり、現住所の把握が松苓会でも不十分な現実がありました。案内通知が届かない失礼も多かったと思われます。ご寛恕下さい。お手数ながら、最新の消息を松苓会までお知らせ下さることをお願いします。

家への道すがら、夕べの叢から虫の音が聞こえてきました。

松岡ゼミ(経営学)OBORG会

助川忠弘(政3)

4月30日、数年ぶりとなる国際政治経済学部経営学ゼミのOB会を横浜のインターコンチネンタルホテルの海を眺められるレストランを会場に開催しました。参加者は、ゼミの担当であった松岡一夫先生を含めて20名。先生の最初の教え子となる1期生が今回のOBORG会を企画したこともあってか、1期生と2期生の参加が10名と多くなりました。全体では1期生から11期生と幅広い世代が集まったのOBORG会となりました。

最初に先生の挨拶を頂くと、当時を振り返りながら学生たちとの思い出を、特に参加者一人一人の今だから言えるエピソードなどもユーモアを交えてお話しされ、久しぶりの顔合わせの場もこの挨拶で一気に和やかなムードになりました。

そして乾杯の後は、席を移動しながらの懇親会。皆、社会に出て20数年、会社に勤めて年数を重ねて管理職として更なるステップアップに励む話、結婚を機に会社を退職しての生活や子育てに奮闘する話と、それぞれに卒業後の人生経験を思い思いに語り合っていました。

その中でも特に印象的だったことは、働いていれば悩みも出てくるものですが、日頃、同僚などには言えないような悩みを言葉にすると、聞いている人から様々なアドバイスが

出てきて、学生時代に戻ったかのように熱心に語り合っていました。



横浜市「インターコンチネンタルホテル」にて

たのかなど、初心に返って語り合うことができました。今思えば、ゼミの中で先生が話してくれた「何のために働くのか」、「会社で働くことの喜びや苦しみ」といった学生の時はなかなか理解することのできなかった話も今なら自分のこととして理解することができそうです。

話は尽きないところではありますが、改めて今回の同窓会を通して、明治から続く二松學舎の旗の下で、共に学んだ仲間だからこそ、普段は言えないことも心から話すことができたのだと思います。

今回、このOBORG会を開催するにあたり、松苓会の補助があることを聞き、卒業生活動開催助成金を申請しました。松苓会も卒業生の活動を積極的に支援してくれています。これを機に、今読んで頂いている皆様も同窓会やゼミ会などを開催してはいかがでしょうか。

大学だより

平成30年度本学卒業高等学校長との懇談会開催

5月23日(水)に、大宮ソニックシティ内のレストラン「瑞麟」にて、現職の高等学校長である卒業生の方々と大学教職員との懇談会が開催された。法人からは五十嵐清常任理事(文44)、大学からは磯水絵副学長(文学部教授・文41)、教職課程からは若井田正文教職支援センター長(教授)、田村幸子教授が参加、総勢16名での開会となった。

懇談会は五十嵐常任理事の乾杯で和やかに始まり、教育現場の現状や、教員志望の現役学生に望むことなど、大変有意義な意見交換の場となった。今年度は昨年を上回る出欠回答を頂いたが、校務のためご参加



頂けなかった卒業生の高等学校長の方々は、出欠連絡の際に母校への励ましのお言葉を頂戴した。ご参加戴いた先生方からは学生

時代のエピソードを披露頂いたり、当時の二松學舎の思い出話にも花が咲き、大いに盛会となった。

千葉県教員の会発足

8月24日(金)に、二松學舎大学九段1号館にて千葉県内の現職教員からなる「千葉県教員の会」第一回総会が開かれた。来賓には、廣田克己松苓会長(文38)と辻将一千葉県支部長(文45)のご出席を得て、これまで設立準備委員会の中でご尽力されてきた芝田周一附属柏中学高等学校長(文44)が満場一致で会長に選任された。役員は次のとおり。

会長 芝田周一(文44)
副会長 河野千津子(文49)・小野央(文51)・阿部真之(文52)
事務局長 荒井俊郎(文54)
会計・理事 金子尚美(文80)
監事・理事 杉山辰夫(文55)・細川義文(文58)
理事 今野美喜子(文56)・屋代健治(文54)・小林真佐美(文63)・松本眞月(文84)

また相談役には辻将一千葉県支部長と田村幸子教授が推薦され、それぞれ承諾を頂き、辻支部長からは過去に同様の立ち上げのあった経緯や卒業生教員支援の在り方にも言及があり、本会を支援くださるとの応援の挨拶を頂いた。

講演会は『新学習指導要領について』と題し、千葉県教育庁指導主事の細川義文氏(文58)から、『教

科書にのる中世の随筆・説話』と題し、二松

學舎大学副学長の磯水絵教授(文41)からご講演を頂いた。

懇親会は13階のラウンジ

に会場を移し活発な情報交換がなされ、今後の活動の糧となる有意義な会となった。



千葉県教員の会講演会

各県の教員の会総会について

今年度開催された教員の会総会・講演会については左記のとおり。

○神奈川県教員の会

開催日 8月18日(土)

場所 二松學舎大学九段校舎

議事 ①平成29年度事業報告及び決算報告

②平成30年度会長選任・役員選任

③平成30年度事業計画及び予算案

記念講演

『論語』はなぜ読み継がれるのか

講師 牧角悦子教授

総会後の懇親会では、来賓として

御出席戴いた、松苓会の平野光治神奈川県支部長(文40)から現職教員

へのエールとなる温かなご挨拶があった。今年度教員採用一次選考を合格した現役学生も積極的に諸先輩からのアドバイスを受け、今後の励みとなったようであった。

○埼玉県教員の会

開催日 8月20日(月)

場所 二松學舎大学九段校舎

議事 ①平成30年度役員選出

②今後の活動について

記念講演

『埼玉県教育の今日的課題』

講師 金子廣志新座市教育長(文38)

総会後に開かれた懇親会には、ご講演を戴いた金子教育長もご参加くださり、また多くの卒業生現職教員からの近況報告や各自の活動についての話に大いに盛り上がった。

○茨城県教員の会

開催日 8月28日(火)

場所 ホテルレイクビュー水戸

議事 ①教員の会活動経過報告

②平成29年度会計報告・平成30年度活動計画

③役員改選

国語(古典)講習会

「教科書に載る随筆・説話」

講師 磯水絵教授

毎年、茨城県教育委員会と水戸市教育委員会の後援を得て開催している国語講習会に合わせて開催している総会では、新会長に今瀬一博氏(文57)が選任され、青山幸雄前会長(文49)から運営を引き継がれることとなった。

教員免許状更新講習

免許状更新講習を終えて

鶴間貴幸（文74）



卒業後およそ10年たち、いよいよ教員免許状更新講習を考えなくてはいいけない

と思い、二松學舎大学のホームページを閲覧すると、選択講習で書道を実施していると知り、昨年度のうちに母校での受講を決めていました。

私は卒業後、郷里新潟県佐渡市の中学校国語の産休代替教員を務め、その後縁あって東京都の教員となりました。中高国語での採用でしたが、はじめ肢体不自由特別支援学校で6年、その後現在勤務する知的障害特別支援学校の都立練馬特別支援学校へ赴任しました。重度から軽度の知的障害のある生徒が在籍しているため、生徒の実態に応じた柔軟な指導を実践していく上で、最新の教育について学び、職務に活かしたいと思い受講をしました。

受講する5日間、附属高校の2年連続の甲子園出場の横断幕を横に見ながら、久しぶりの大学へ通いました。新築だったころの校舎が今でもきれいで居心地のよい状態で保たれていると感じつつ、講習を受ける教室へ入りました。どの講義もととてもわかりやすく、懇切丁寧に指導して

いただきました。特に『学校における危機管理上の問題の講義』では、「リスクマネジメント」「クライシスマネージメント」の必要性を再度確認することができました。すべての講義ですぐに参考となる内容で、今回学んだことを取り入れ実践していきたいと思いました。

選択講習の書道では、行書・隸書・仮名・漢字仮名交じりの指導法を学び、書作における注意点や、指導上の留意点について実技を交えて指導していただきました。書道の受講者は10名ほどと少なく、先生からきめ細やかな指導をしていただけました。高等学校での書道指導は現在携わっていませんが、書写や日常の書字指導に通じるものも多く、とても勉強になりました。

5日間で学んだことをよりよい教育を実践のために活かし、所属校で生徒・保護者・地域の方の期待こたえられるよう、日々の職務を行いたいと思います。

（東京都立練馬特別支援学校）

胸の高鳴り

星野恵子（文55）



「13階のラウンジから見る夕焼けの景色は素晴らしいですよ、是非一度皆さん

にも見て頂きたい。」の言葉に始まった。最終日17時10分からの卒業生対象の交流会。その会の終了の挨拶の後であった。「二松の焼酎があるんです。飲んでみませんか？」と、大学の方が瓶のラベルを見せながら声を掛けてくださった。一期一会がモットーの私。味見程度に少量を頂く。大吟醸冷酒好きの私ではあるが、くせの少ない上品な味の米焼酎で、非常に美味しく頂けた。「松が枝」のラベルを一見し、書道専門の先生の筆ではないな、と直感した私が「どなたの字ですか」と尋ねると、何と石川忠久先生の手によるものであった。即座に卒業生を代表し、「これは講習会のテキストと一緒に是非送っていただきたい。」とお伝えした。因みに、「二松勝沼ワイン」もあるそうだ。

私の勤務校は74クラスを有するマンモス校なのだが、同僚の多くは、系列校である共和大学（こども学科とシテイライフ学科の講座がメイン）や放送大学、宇都宮大学で受講する。仕事に忙殺されている我々教員にとって、通いやすく学校行事に配慮してくれる大学の講習会は本当に有り難い。だが、「同じ時間を割くのなら絶対に専門教科を学びたい」と決めていた私は、めばしい大学を調べた。ところが、予想に反して国立の教育学部でさえ学びたい専門科目は開設していないのである。

今年の二松の選択講習内容は、「川

上未映子」「村上春樹」「吉野弘」「宮澤賢治」「伊勢物語」「徒然草」「三國志」「論語」。これだけ専門を深く学べる更新講習は大変貴重である。二松の講習授業のレベルの高さを皆さんは御存知だろうか。二松卒ではない国立大附属校勤務の先生が私に話してくださいました。「荒井裕樹先生の『文学におけるマイノリティ研究』を是非とも聞きたくて二松を選び受講したのだ」と。多くの方と有意義な情報交換ができ、かつ新しい文学の視点も学べた密度の濃い時間を過ごさせていただいた。

余談だが、13階のラウンジでの980円ランチ3種類はどれも美味であった。9時～16時50分のテスト終了まで、長時間の学習に頭が火を噴き、集中力が切れそうになった瞬間も実はあったのだが、前の席のN女史（この講習会で知り合った二松の卒業生）の凄まじい集中力と熱意に私は引きずられ、どうにか持ちこたえた。「環境は人を作る」。二松學舎大



更新講習最終日の交流会

学とは何と素晴らしい所かと、30年の時を越え、胸の鐘が鳴っている。（宇都宮短期大学附属高等学校）

あの頃の就職部

山崎 修(文60)

現在のキャリアセンターはかつて就職課という部署であり、平成4年に私が就職した当時は、九段キャンパスのみに設置されていた。その当時の就職課は、石崎俊明課長、神河秀春係長、松田佳代氏と、山崎であった。

平成5年には、従来の学務部から離れ、就職部となり、初代就職部長に松岡一夫国際政治経済学部講師が就任された。またこの年には、国際政治経済学部1期生の3年次進級にあわせ、柏キャンパスにも沼南就職課が設置された。沼南就職課は、九段キャンパスから神河係長が異動したことに加え、附属高等学校事務室から異動してきた野口純代氏と、この年の新卒である板東説也氏が配属となり、柏キャンパスで学生への就職支援にあたった。そしていよいよ平成6年には国際政治経済学部1期生が4年次となり、就職活動に取り掛かることとなる。

一方でこの当時の大学生の就職環境は、平成3年度末のバブル崩壊を経て、企業は徐々に新規採用の抑制を始めていった頃であった。しかしながらすべての企業が採用を抑制していた訳ではなく、むしろ大手企業が採用を控える今こそ新卒者を採用したいという中堅・中小企業も多くみられた。

そうした中、松岡就職部長の指示

のもと、就職部の職員全員が積極的に企業訪問する等、求人先の開拓に尽力していた。訪問先は主に大学の卒業生が在職している企業や、先に挙げたような採用意欲の旺盛な企業で毎日のように企業訪問をしていた。その甲斐もあって、本学学生を毎年継続的に採用していただける企業とも巡り合うことができ、現在でもこの当時の縁が続いている企業が少なからずある。また、当時の学生も就職活動に積極的に取り組んでいたため、国際政治経済学部1期生の就職状況は、大変好調であったと記憶している。また文学部も教職、民間企業への就職いづれも、順調な結果を残していた。

しかしながら、バブル崩壊後の景気低迷は続き、企業側の採用意欲も低迷を続け、後に「就職氷河期」といわれるほど、大学生の就職は年々困難になっていった時代である。そこで、就職部では引き続き中堅・中小企業等の採用意欲の旺盛な企業に訪問を続け、求人先の確保、またそれに連

動して求人企業への大学からの推薦制度を充実させる等、学生の就職支援に向け



平成6年度の就職特別講演会

て、新たな取り組みを行っていた。具体的には平成6年から、それ以前は個別におこなっていた企業への推薦を、学内で希望者を募り、学内選考を経て推薦するという推薦制度を導入したこと、また企業経営者（主に卒業生）や、人事担当者を招聘して「就職講演会」を開催したことが挙げられる。この就職講演会は好評で、毎回多くの学生が参加してくれ、さらに新たな取り組みとして、内定企業や卒業生が在職している企業等を招いて、「産学交流会・感謝の集い」を開催し企業との交流を深めた。この交流会はその後引き続き開催され、平成25年度まで開催されていた。このほか、卒業生の皆様にも現役学生の就職についての協力を仰ぎ、企業経営をされている先輩方には本学学生を積極的に採用いただくなどのご支援をいただいた。このような取り組みの結果、本学では両学部とも良好な就職状況を維持することができた。

一方、世間では、景気の低迷は続いており、大学生の就職環境においては、平成8年に「就職協定」が廃止され、企業による「青田買い」が行われるなどの混乱がみられた。また社会的にも平成9年には四大証券会社の一角であった山一證券の自主廃業、大手都市銀行の一つであった北海道拓殖銀行の倒産等、ショックな事件が多くみられ、本学においても就職に不安を感じる学生も少



現在のキャリアセンター（九段1号館3階）

なからず見られた。そうした中、就職部では学生が安心して就職活動に臨めるよう、就職相談や企業への推薦等に取り組んでいた。そうした取り組みの結果、このような厳しい環境の中でも、苦戦する学生はいるものの相応の就職状況を保つことができた。

その間、就職部は平成8年に石崎副部長が就職部長に就任し、瀬尾勝義氏が就職課に赴任し、新しい体制となって就職支援に取り組むこととなった。

その後、就職部はキャリアセンターとなり、個人面談の充実等、当時から続いている支援に加えて、各種の就職支援行事や講座等、より充実した就職支援に取り組んでいる。

（本学情報センター管理室長）

恩師からの便り

私の近況

矢羽 勝幸

元ゼミ生及び私の授業を受講された皆さんお元気でしょうか。早いもので退職（65歳）からもう8年も経ってしまいました。編集部より近況を書けという御下命です。73歳の老人が毎日何をやっているか、皆さんが興味をお持ちかどうかわかりませんが、ざっと、書いてみましょう。

私は未明の3、4時頃に起床するのが常で新聞（4時に届く）を読んだから運動を兼ねた散歩に出ます。私の家の裏には千曲川が流れていて、その長い土手を瀬音を聞きながら30分ほど歩きます。誰もいない舗装された真直ぐの長堤は清涼そのものの、気持ちも洗われます。陽が出ると暑くなるので帰宅、朝食（8時）まで読書あるいは執筆に励みます。

読む本は、大方毎週東京の古書展から購入（郵送）した雑書ですが、よく観るのは小松茂美氏の『日本書蹟大鑑』（全25巻）や石井真之助氏の『板碑遍歴六十年』などです。私は古人の筆蹟や古



千葉県・金谷金泉館でのゼミ合宿
(平成7年3月)

い拓本（古碑・古鐘・板碑）などが好きで原拓も沢山持っています。

古稀を超えるとあまり伝記などには興味がなくなり（今さら他人の生き方を知って何になる）いきおい趣味の方面にむかってしまうのはしかたがないでしょう。

私の趣味は、古人、特に古俳人の書蹟（懸幅・短冊・色紙ほか）の鑑賞で、もう年ですからいままで蒐めたそれらを処分した方がよいのですが、まだ一カ月に二、三本は買ってしまうます。森田恒友・若山牧水・伊藤木兎・鳥丸光広・岩下桜園・井上白文地等々。

年はとりましたが執筆は私の本命というべきもので、若い頃井本農一先生から頂いた教訓（年に二本はしっかりした論文を書け。あとはどれだけ雑文・小論文を書いてよいし）をたよりに一応励んでいます。

長年蒐めた資料が沢山あり、それらを論文にまとめなければなりません。あと何年続くことでしょうか。

次はアルコールの話。二松學舎時代は同僚の酒豪たちとよく呑んだが、年とともに酒量も減り、夏は一日おきにオンザロックを少々、春秋・冬は日本酒アルミ鑑一合のみ。7月5日、冬季オリンピック金メダリスト小平奈緒さん等と信毎賞（信濃毎日新聞社）を貰いました。お暇の方はお便りをください。

3860152

上田市大屋六二二

(客員教授)

卒業生だより

国枝清由氏（文24）
「瑞宝小綬章」受章



平成30年春の叙勲において、昭和31年3月卒業の国枝清由氏が教育功勞者に贈られる「瑞宝小綬章」を受章されました。

国枝氏は、北海道中川郡幕別町在住。本学卒業後、北海道内の公立高校に勤務、上士幌高等学校校長を最後に定年退職されました。本年7月には、句集「雪絆」を発行。

松本 茂氏（文43）

『鑄物師七郎左衛門』で
「伊豆文学賞」最優秀賞受賞



第21回伊豆文学賞（静岡県、静岡県教育委員会、伊豆文学フェスティバル実行委員会主催）の小説・随筆・紀行文部門（審査員は三木卓、村松友視、嵐山光三郎、太田治子の各氏）で松本茂氏の『鑄物師七郎左衛門』が最優秀賞を受賞、その作品集が本年3月に刊行されました。

『鑄物師七郎左衛門』は、幕末から明治へかけての近代化のプロセス

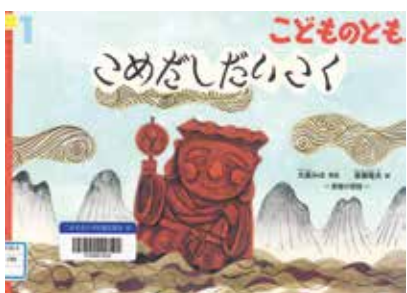
を、森町の鑄物師の父子の人生のうちに描いた。それは激変の日々の連続である。父は自分のなして来た日々に忠実であり、息子は高等教育をうけドイツへ留学するエリート

の建築技師となる。そしてその二人が、〈和魂洋才〉の技術で力をあわせて四天王寺の巨大な鐘の鑄造にむかっていたが、よく史料をつかって、地に足のついた叙述でよみやすい。材料をわがものにした、こなれた文章である」

（三木卓氏の選評）

松本氏は昭和50年3月文学部卒業、静岡県下で公立高校教諭となり、定年時は、浜松江之島高等学校校長。

大黒みほさん（文58）
『こめだしいこく』出版



平成2年3月卒業の大黒みほさんが、福音館書店「こどものとも」742号として『こめだしいこく』（大黒みほ再話

齊藤隆夫絵「愛媛の昔話」を出版。「愛媛と大分にまたがる瀬戸内に伝わる昔話を伊予のことばに再話」（編集部だより）したもの。

大黒さんは、第13回創作コンク

ル童謡・少年詩部門優秀賞（日本児童文芸家協会）を受賞。日本文芸家協会会員。

三遊亭兼好さん（文60）
エッセイ集『お二階へご案内』
刊行



落語家として活躍中の三遊亭兼好さんが、「東京かわら版」連載中のエッセイ「お二階へご案内」を出版した。副題は「虎の巻、妻と上手に生きる方法」。

本年6月5日付の読売新聞（夕刊）文化欄で「芸歴20年 三遊亭兼好」 「あくまで明るい高座」 「連載エッセイ書籍化へ」として紹介された。

三遊亭兼好さんは、福島県会津若松出身。92年3月文学部国文学科卒業。紙卸問屋、タウン誌記者、魚河岸で軽子（魚を運ぶ人）を経て98年8月、28歳で三遊亭好楽に入門し「好作」。98年10月前座。02年3月二ツ目に昇進し「好二郎」。08年9月真打に昇進して「兼好」。

古典に巧みなアレンジを施し、軽妙洒脱な高座で人気が高い。

「三遊亭兼好芸歴20周年記念公演」の関東ツアー+1が、来年2月9日に埼玉、10日に東京、23日に千葉で、3月は15日に神奈川、31日に福島で予定されている。BSフジでは毎週金曜夜11時55分～12時「まるっと兼好。」を放送中。

古谷田奈月さん（文72）
「無限の玄」で三島賞受賞
「風下の朱」で芥川賞候補



昨年『リリース』で第34回織田作之助賞を受賞した古谷田奈月さんの近作「無限の玄」が第31回三島由紀夫賞を受賞、「風下の朱」が第159回芥川龍之介賞候補作となりました。両作品を収載した著書が筑摩書房から出版されました。

古谷田さんは、平成16年3月文学部国文学科卒業。同氏には、『星の民のクリスマス』、『ジュンのための6つの小曲』、『望むのは』（いずれも新潮社）等の著作があります。

会員からの便り

近世文学専攻からの転身
—中国語を学び外務省へ—

小松道彦（文47）



会員の皆様、こんにちは。私は昭和54年3月文学部国文学科卒業の小松道彦です。

と申します。現在は、在重慶日本国総領事館で総領事をしております。昭和53年（1978年）8月、卒業後の就職を考えていた頃でした。ニュースで、日中平和友好条約が締結されたと聞いたとき、今でもなぜか不思議ですが、急に「これから日中関係が緊密になる時代が来る」という考えが頭をよぎりました。そして、翌年春の就職はせず、卒業後外国語学校に入り、大学で学んだ中国語を1年間徹底的に勉強し直しました。

その後外務省に入省し、専門職として外務本省のほか在中国大使館、在ロスアンゼルス総領事館、在広州総領事館等勤務を経て現在に至ります。その間、日本台湾交流協会に出向し台湾にも勤務しました。たぶんここ重慶が最後の勤務地となると思いますが、本年は日中平和友好条約締結40周年の年です。冒頭で申し上げた、自分が日中関係の仕事をするきっかけとなった理由に鑑みれば、日中平和友好条約40周年の年に重慶

総領事として仕事をするのが出来たことは感慨深いものがあります。

当館の管轄地域は中国の西南地域と呼ばれるところで、直轄市である重慶市の他に四川省、雲南省および貴州省で、全体の面積は日本の3倍、人口は2億人という広大な地域です。そしてこの西南地域には漢民族だけではなく、多くの少数民族が住んでおり、多種多様な文化があり、大変興味深いところです。また、これまで中国は日本とまさに一衣帯水の環太平洋国家だと思っていたのですが、ここ中国の内陸部に来てみると、中国は、西はヨーロッパにつながり、南は南アジアや東南アジアにつながるユーラシア大陸の中の広大な国家であることを実感します。また、たくさんの人たちが日本に対して友好的で日本への関心が高く、訪日観光客も増加の一途です。そして多くの若者が日本語を勉強しており、日本への留学も増えています。

総領事館の主な仕事は、日本人旅行者や在留邦人の保護、日本企業の支援、相手国人等へのビザの発行、両国の友好関係の促進等です。私は、日本と中国はもっとも相互理解を深めなければならないと考えています。特に青少年の交流が重要です。中国文学でも伝統ある二松學舎が、これからその重要な役割の一端を担っていたら期待する次第です。二松學舎の今後ますますのご発展と会員の皆様のご活躍を祈念します。

『金魚玉』で俳人協会新人賞受賞

黒澤麻生子(文63)



昨年の夏、第一句集『金魚玉』を上梓しました。25歳で始めた俳句、約20年

間の句を纏めた句集です。25歳からの20年といえば人生においてとても変化の大きい年月であり、私にも結婚、転職、母の死など様々なことがありました。そもそも大学卒業時は超就職氷河期、何事も順風満帆にはいかぬ覚悟はできていたように思います。そしてこの年月を支えてくれたのが俳句の存在でした。喜怒哀楽あらゆることを俳句に詠みこむことで、つまらないことも意味のあることとなり、前に進む勇気を得ることができました。とても個人的な要素の詰まった句集ではありますが、この句集を「俳人協会新人賞」「与謝蕪村新人賞」受賞という形で評価していただいたのは存外の喜びで、つくづくありがたいことだと思っております。

句集のあとがきにも書きましたが、句集名『金魚玉』は、〈金魚玉むかしのことはいきいきと〉から採りました。現在、私は在宅高齢者を支えるケアマネジャーとして勤務しており、日々訪問を繰り返す中で得た句です。どんなに高齢になっても昔のきさらきらとした思い出を心の奥

底に持ち続けているもの。少し前のことを忘れてしまったとしても、思い出という宝物を大切に、胸を張って今日を生きてほしい、句集名にはそんな思いも込めています。学生時代は書道や中国文学を学んだのに、どうして今は介護福祉の世界にいるのだろうと我ながら可笑しくなりませんが、人生なんて先がわからないから面白い。少なくとも大学時代に様々な価値観と出会えたこと、文学を通じて学んだこと、先生方や友との出会いは、いまの仕事にも俳句にも活かされているように思います。とにかく欲張りに何でもやってみたくて、どれも中途半端で、痛い目にもあって、それでも楽しかったあの日々を今はとても愛おしく思い出すのです。

さて、今年の2月、『朝日新聞』に拙句を12句掲載していただきました。その中の一句が〈人生百年時代のバレンタインの日〉。仮に私が百歳まで生きられるとすれば人生はまだ折り返し地点の手前、まだまだたくさんのお会いが待っているはずです。これからはケアマネジャーという仕事を持ちつつ、俳句を、生きていく今を、精一杯詠み続けていきたいと思えます。

〔編集部注〕

朝日新聞の掲載は、平成30年2月14日夕刊文化欄「あるきだす言葉たち」

環境保全の取り組み

富樫里真(文65)



人は、時に思いもよらなかった方向に進むことがあります。大学時代から、私は日本語教師として日本と外国の橋渡しになる仕事ができればと考えていました。

その後、上海で日本語学校を設立する際のお手伝いをする機会に恵まれ、そこで砂漠化防止活動に取り組み夫と出会いました。それを機に、典型的な文系で理系分野とは全く縁のなかった私が、環境問題、とりわけ砂漠化問題に関心を持つようになりました。

現在、年間約6万km²が砂漠化しているそうです。ちょうど九州と四国を足したぐらいの面積ですから、単純に計算すると数年で日本列島が砂漠化してしまうほどのスピードとなります。もしこのまま砂漠化が進めば、住む場所を追われる人々が増えるばかりか、耕作不能の土地も増え、近い将来起きるであろう食糧問題がさらに深刻なものとなります。

このような問題が迫っている今、私たちに何ができるでしょうか。

世界にはさまざまな文化背景と価値観を持った人々がいますが、こと環境問題に関しては、文化や分野を越えた協力が必要です。また、当然

のことながら、自然と向き合っていくには長い年月が必要であり、活動を持続していかなければなりません。持続的な活動と理解を広めるために少しでも何かできればと思います。2016年に柏市で株式会社プラントテクノロジーを設立いたしました。弊社では、コウバクニクジュヨウという漢方植物を原料とした漢方の薬味酒「遼伝来福酒」を千葉大学の池上文雄名誉教授の指導のもと開発し、健康

維持や不妊等の体質改善を望まれる方にご愛飲いただいております。「コウバクニクジュヨウ」は厚生労働省により医薬品として認可されていますが、ほとんどの方がどんな植物かご存知ないと思います。この植物は、乾燥に強いソウソウという木の根に寄生する植物で、ソウソウを植林してから3年後に、その根に種子を寄生させ、さらに3年間、合わせて6年の歳月をかけて40〜160cmにまで生長します。植林活動と同時に育てたこのコウバクニクジュヨウは、中国最古の医書である「神農本草経」には、「五勞、七傷を主治し、中を補い、茎中の寒熱痛を除き、五臓を養い、陰を



植林したソウソウの根に寄生し、成長したコウバクニクジュヨウ

強くし、精気を益し、子多からしむ。婦人の癥瘕を治す。」と、365種の養命薬の中でも上品として収載されています。「遼伝来福酒」は、砂漠のすぐ側で暮らす農牧民が環境保全をしながら6年の歳月をかけ大切に育てた「コウバクニクジュヨウ」を原料としているのです。

私は、たまに訪れるボランティアによる貢献だけでなく、砂漠化の進む地域で暮らす人々が自らの手で故郷の環境保全活動に取り組みやすい仕組みに育て、また、人々の健康を増進させ、砂漠化問題について知ってもらうきっかけづくりを目指しています。

環境保全活動を持続可能なものとするためには、ただ「環境のため」ということでは難しい現実があります。それは、環境保全活動だけで生活の糧を得るのは難しいからです。まだまだ国や大手企業、ボランティアの支援に頼らざるを得ない活動を、環境保全活動そのものが経済的支えとなり自立できるような支援へとシフトしていくことが今求められていると考えています。

持続可能な環境保全活動は、世界的にも意識が高まっています。2015年9月に国連サミットで採択された「SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)」にも、エネルギー問題、気候変動、陸や海の豊かさへの取り組みが掲げられています。

私たちの取り組みはまだ小さな取り組みではありますが、一歩一歩この活動を広げ、未来を担う次の世代にバトンを繋いでいくことを願っています。

大学時代は、将来自分が環境問題を支援する事業に関わるとは思っていまませんでした。しかし考えてみれば、私が日本語教師という仕事を目標にしていたのも、国や文化を超えた理解に役立ちたいという想いからであり、形は違っても根本的な部分では繋がっているのではないかと思うようになりました。

また、多くの方との出会いが繋がって現在の事業にたどりつきました。大学1、2年を過ごした柏で起業したことも、縁あったのことと思っております。

今後は、現在取り組んでいる活動を少しでも多くの方に知っていただくよう、日本語教師としての経験も生かし、環境や語学を含めた教育分野にも力を入れていきたいと考えております。

今回、二松學舎大学卒業生の名刺交換会でお会いした卒業生の方のご紹介で、柏市のふるさと納税返礼品として「遼伝来福酒」を登録させていただきました。会場でお会いした先生方はじめ諸先輩方にも温かい激励の言葉をかけていただいたこと、会員からの便りへの寄稿の機会をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

夏目漱石との縁

岩淵敏司 (文66)



松苓会の皆様、こんにちは。平成10年(1998年)に文学部国文学科を卒業致しました、岩淵敏司と申します。この度は僕のような人間に、貴重な機会を与えてくださり、誠にありがとうございます。と言います。と言います。実は、せつかく二松學舎大学に入ったにもかかわらず、本来目標としていた教員にもならず、企業にも就職せず、「俳優」を志してしまった不屈き者がこの僕なのです。しかし二松出身で良かったと思うことも多く、この近況が「二松出身にもかかわらず、こんな生き方をしてきた者もあるんだよ」というサンプルになれば幸いです。

さて、学生時代には、故・今西幹一先生の近代文学のゼミに入り、白樺派を中心に多くの国文学に触れながら、クラブ活動では「狂言研究会」に入り、師範の大蔵吉次郎先生をはじめ、諸先輩や同期の部員らから、たくさん学ばさせて頂きました。それらの活動から「自分にできる表現の楽しさ」にのめり込んで行き、大劇場から小劇場まで様々な現代の演劇を勉強し始め、いつの間にか進路を「俳優」に定めていました。

今西先生に相談の際にいただいた

「俳優になるのであれば、優れた俳優さんを目の当たりにすることも多いだろう。もしその時にコンプレックスが生まれたら、ひとつひとつ打破してゆくのが君の仕事ですよ」というお言葉は今でも強烈に心に残っています。卒業後は小劇場を中心に俳優としての研鑽を積み、この頃ではテレビ(「相棒」等)や映画・ナレーションのお仕事を頂きながら生活をしています。

さて、ここにいよいよ、松苓会の皆様にも喜んで頂けるお話を。

昨年、愛媛県の「坊っちゃん劇場」の「5days」愚陀佛庵、二人の文豪」というミュージカルに出演し、正岡子規役を1年間務めて参りました。そしてその話には子規ともう一人の主役がいました。そうです、二松學舎にも縁の深い「夏目漱石」です。文学系の舞台に出演できたこともさることながら、卒業してから20年経つてついに僕は、役とはいえ漱石と芝居ができたのです。二松出身者としては非常に誇らしいことでありましたし、二松で学んだ漱石と共演できるとは!!二松學舎で養った血と肉がこの機会を引き寄せたのでしようか。

さて、次なる目標は「漱石アンドロイド」と共演することです。そんな日を夢見て、これからも精進してゆきたいと思っています。

学生会員だより

今号から学生会員のページを設けました。今回は、学生会執行委員会の活動を紹介します。

学生会活動・新入生歓迎式典

宮下凌輔

平成30年度学生会執行委員会会長を務めております、2年の宮下凌輔です。昨年の12月に行われた学生会長選挙に当選し、就任いたしました。

今回は私たち学生会執行委員会の活動について報告させていただきます。この任期は1月から12月となっており、学生会は1年生、2年生がメインで活動しており、新入生歓迎式典、定期学生総会、九段祭POP、柏祭GUTSといった行事を主に運営しております。これらの行事が年



の前半に集中しているため、また11月に行われる創縁祭に向けて大掛かりな準備を行うため、夏休み頃から学園祭実行委員会と名前を変え、3年生を加えて活動を行

っております。これから各行事には責任者がおり、のちの文章にて報告と紹介をいたします。

新入生歓迎式典

は、新しく入学した1年生を歓迎する大事な行事となっており、我々学生会にとっても初めての、大変重要な行事となっております。今まで支えていただいていた先輩方の手を離れ、2年生だけで運営していくのは不安も多く、たくさん問題点とぶつかりました。はじめこそ前途多難な予感がしていましたが、委員会のメンバーや学生支援課の皆様や父母会の方々の協力のおかげで無事開催することが出来ました。



学生会執行委員会、学園祭実行委員会とは多くの方の支援と協力の上に成り立っております。これまでの活動に対する協力を厚く御礼申し上げますとともに、これからの学生会執行委員会を何卒よろしくお願い申し上げます。

定期学生総会

齊藤太一

平成30年度定期学生総会責任者を務めさせていただきました、2年の齊藤太一です。平成30年度定期学生総会を5月19日（土）に九段キャンパス一号館中洲記念講堂にて行いました。学生総数2963名のうち1395

名が委任状提出をし、当日は100人が参加しました。

総会においては、学生会執行委員会役員紹介に加えて前年の活動報告、決算報告、今年の活動予定、予算案、規約の改定、学生から寄せられた議案の協議を致しました。

議案は、創縁祭の振替休日設ける件、授業等で必要となる資料の印刷を円滑に行うため両替機を設置希望の件、手数料無しで対応しているATM設置の件、一号館にジェットタオルとコインロッカーを設置希望の件の4つが可決されました。

九段祭POP

小磯彩歌

九段祭POP2018責任者を務めさせていただきました、2年の小磯彩歌です。九段祭POPは6月17日（日）に九段キャンパスにて行われた文化系団体の文化祭です。今年は



「響」というテーマ、「九段祭POPに関わるすべての人とひとつの音を奏でたい」というコンセプトのもと、学生会執行委員会を中心に準備を進めて参りました。

梅雨時のため開催当日は雨天が心配でしたが、雨が降ることなく過去

最高の264名という多くの方に来場していただくことができました。これもひとえに九段祭POPに参加を決

めていただいた団体の皆様のお陰だと感じております。中洲記念講堂でのステージ発表では発表を行っている各団体と発表を見に来ている来場者の方々がひとつになつて楽しんでる様子が多々見受けられました。教室発表でも各団体がそれぞれの団体の特色を活かした素晴らしい展示などを行っていた様子を見ることができました。また、学生会執行委員会でも1年生が主体となつて企画を考えた学生会執行委員会企画も多くの方に楽しんでいただくとことができました。今年は例年人気のビンゴ大会や、九段祭POPに来場していただいた記念にとオリジナルのキーホルダーをプラバンで作る企画、ストラックアウトとボーリングを開催した縁日などが人気でした。これらの学生会執行委員会企画は来場者の思いとして、心の片隅に残ったのではないかと思います。

九段祭POPを無事に終えることができたのは九段祭POPに関わってくださった全ての方のお陰だと思っております。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



柏祭GUTS

新倉大輝

柏祭GUTS 2018 責任者を務めさせていただきました、2年の新倉大輝です。本年度も例年同様、本学柏キャンパスにて『柏祭GUTS』を開催いたしました。毎年、柏祭GUTSが6月下旬梅雨時の開催であるため、本年度はグラウンドを使用していた競技は行わず、体育館での一競技、ドッジボールのみの開催となりました。室内のみでの競技開催ということで雨天の心配はなくなりました。しかし、例年二競技開催であったところを本年度は、一競技開催。エントリー期限終了間近になっても参加チームは思うように募らず、最悪の場合、柏祭GUTSを中止することも考えました。しかし、私の想い、役員の想いが通じたのか、最後の最後で柏祭GUTSを開催できる数のチームが集まりました。



本年度の柏祭GUTSのテーマは、『VICTORY』。目指せ勝利！目指せ優勝！というコンセプトでした。役員間で選り、決定したこのテーマとコンセプトのもと、柏祭GUTS開催日に照準を合わせ、準備を進めて参りました。開催日当

日の参加チームの皆様、全力で勝利を目指すそのひたむきな姿を目の当たりにし、私自身とても感慨が深くなりました。先程、



私は柏祭GUTSの開催日に照準を合わせ、準備を進めてきたと述べました。正直、その準備を進めていく中で私は、「責任者」という責務を投げ出してしまいたくなる時がありました。責任者という重圧、孤独に何度か潰されそうになりました。しかし、そんな私に同じサークルの役員が、仲間が手を差し伸べてくれました。弱音を吐く私に、「頑張れ」という言葉ではなく、「一緒に頑張ろう」という言葉をかけてくれました。その言葉にどれほど心を救われたでしょう。仲間の存在には本当に感謝しかありません。柏祭GUTS終了後には、参加チームの皆様から「来年もGUTSに参加する」というお言葉を頂戴いたしました。私がこのような大変な難いお言葉をいただけたのも、仲間の支え、存在があったからこそだと強く感じています。

学生会執行委員会役員、柏祭GUTS 2018に参加されましたチームの皆様、そして私に力を貸してくださいました全ての関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

『刻む〜平成最後の創縁祭〜』

富田樹里

学園祭実行委員長を務めております、3年の富田樹里です。

本年度の創縁祭のテーマは『刻む〜平成最後の創縁祭〜』です。このテーマには「創縁祭に携わってくださる方々と共に刻む時間を大切にしたい」として「楽しさ・喜び・感動が、心に刻まれるような充実したものにしますように」との思いが込められています。

創縁祭では、毎年たくさんのクラブ、サークル、ゼミナールによる発表や模擬店の出店を行っておりますが、その内容は年々パワーアップし、より充実したものになっているように感じております。大変な難いことに総来場者数が毎年増加し続けていることが何よりの証拠なのではないかと思えます。本年は新たに設置された『都市文化デザイン学科』の学部生による

参加などが見られ、新しい風が舞い込んできたかのように変化の兆しが見られます。

また、今日に至りましては開催まで残り一



ヶ月ということもあり、各参加団体が発表や展示などに向け、稽古や準備に奮闘している最中です。昼休みや放課後には、必ずどこかの団体が準備に取り組み姿が見られ、「いよいよ開催が近づいているのだな」とようやく実感がわいてきたものです。

そして、かくいう私たち実行委員会も、参加団体に向けた説明会や当日実施する催し物の検討、構内を彩る装飾物の作成などを行っております。本年も開催を予定しておりますが、芸能人を招致した『声優トークショー』『お笑いライブ』や豪華景品の当たる『ビンゴ大会』はすっかり創縁祭の目玉として浸透してきたように思います。勿論、こちらも前年以上に工夫を凝らしパワーアップした内容をお届けできるよう、実行委員一同準備に取り組んで参りますのでご期待ください。

最後に、私ごとにはなりますが、3年次生が実行委員として活動するのは今年が最後となります。大学での活動や平成という時代の終わりをひしひしと感じる中「最後」という言葉は私たちに、思い切りとやる気を与えてくれる魔法の言葉なのかもしれない。ぜひ皆様も「平成最後」に思い切つて、創縁祭2018に足をお運びいただけたらと思います。



松苓会（同窓会）より アンケートにご回答のお願い

松苓会では、平成27年度の総会で、松苓会の将来のあり方等を検討するため、基本問題検討委員会を設置しました。これまで15回にわたり委員会を開催し、松苓会のあり方・目的、事業・活動、組織・運営、財政・会費、会則・細則等諸規程の整備など、松苓会の諸活動全般にわたる検討を行っています。

平成29年2月に第1次答申（松苓会貸与奨学金を給付奨学金に変更する件）、平成30年4月には第2次答申（松苓会に新に「学生会員」を設ける件）を行い、本年度中に最終答申をまとめることとしています。委員会では、検討

資料とするため、松苓会員、支部長、大学教職員、学生向けの4種類のアンケートを作成し、実施に移しています。

今回のアンケート実施は、会員の皆様の松苓会に対するご意見、要望等を聞き、今後の松苓会活動に生かしていくために実施するものです。アンケート用紙での回答にはこだわりませんので、貴重なご意見等をお寄せいただければ幸いです。

回答は、ファックス、メール、文書等で、またアンケート用紙が必要な場合は、松苓会本部にお問い合わせ下さい。

松苓会 E-mail shourei@nishogakusha-u.ac.jp

（会員向けアンケート）

松苓会では基本問題検討委員会を設け、同窓生の活発な活動参加や若い同窓生の参加を図る改革と活性化を考えています。そこで会員の皆さまのご意見を伺い、お知らせも提供していただきたく、アンケートを作成いたしました。

上記の趣旨をご理解いただき、アンケート回答にご協力をお願い申し上げます。

回答方法 該当する選択肢を○で囲む ☐ には記述（この頁では ☐ を省略）

1、会員の皆さまの日常や各支部の活動内容において、松苓会がお手伝いや協力ができることはありますか。

ア ある イ ない

2、アンケート1で「ある」と回答された場合その具体的内容を書いてください。

3、松苓会は、a 会報の発行、b 各行事に際しての母校支援、c ホームカミングデーの親睦会などの卒業生支援、d 100円朝食や奨学金等の学生支援、e 各県の支部会支援、f 在校生教育支援助成事業を行っております。このことを知っていますか。〈a b c d e f の記号でご回答ください〉

ア 知っている項目

イ 知らない項目

4、アンケート3の各項目について、問題点等も含めてご意見やアドバイスがあれば、項目記号をお示しの上でご記入ください。

5、入学時に入会金を支払っている在学生会員（学生会員）として松苓会に所属し、活動に参加してもらうことを検討しております。このことについてご意見をお聞かせください。

6、松苓会が同窓会として活動すべきことや、会員の皆さまの組織として存続するために、今後どのような運営が望まれるのかについて具体的な事業提案やアドバイス、アイデアをご提供ください。

7、上記の他にご自由にご意見をお聞かせください。



松苓会長連名の表彰状が5人に授与された。在学生の対象者個人21人、2団体への授与式は、5月7日（月）に大学で行われた。

平成29年度学生褒賞 個人26人、2団体を表彰
平成29年度中に課外活動で優秀な成績を収めた学生を表彰する「学生褒賞」の授与式が、平成30年3月5月に行われた。課外活動優秀者表彰は、これまで、大学、大学父母会、松苓会がそれぞれ独自に実施していたが、平成29年度から、大学、父母会、松苓会合同の「学生褒賞」に衣替えし、卒業年次生を対象とした授与式が、3月15日（木）の卒業式後に、同じ会場で行われ、学長、父母会長、

三本木かや乃さん
学生清書コンクールで総理大臣賞
第70回全日本学生清書コンクール（読売新聞社など主催）で文学部1年次（現在は2年次）の三本木かや乃さんが内閣総理大臣賞を受賞。2年次（現在は3年次）の山口真由さんが入賞（推薦）を果たした。入賞作品展が3月29日～31日、授賞式が31日に中央区京橋のギャラリーで行われた。

第100回全国高校野球選手権記念大会（主催 朝日新聞社 日本高等学校野球連盟）
附属高校野球部 2年連続3度目の夏の甲子園



第100回全国高等学校野球選手権記念大会が8月5日から行われた。

甲子園大会初戦（2回戦）は、大会8日目（8月12日）第1試合で広陵高校と対戦、5対2で快勝、3回戦に駒をすすめた。大会12日目（8月16日）は、浦和学院高校に6対

0で敗退し、ベスト8入りは果たせなかった。松苓会本部ではこれまで同様に附属高校の支援募金委員会発起人に松苓会長が加わり、支援募金に必ずることを決定し、加えて役員、支部長宛に文書で支援、協力を依頼した。

今回も近畿連絡協議会（代表末吉榮三氏）では、支援体制を整え、齋藤大阪府支部長、武内兵庫県支部長や多くの支部会員が応援に駆けつけた。松苓会本部からは、廣田会長や役員が甲子園に駆けつけた。

**平成13年度以前の卒業生の方へ
終身会員手続きのお願い**

松苓会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われております。終身会費1万円を納入していたら、終身会員になり、会報の毎回の送付やホームカミングデーの案内が毎年届くようになります。終身会員の手続きをとられることをお勧めします。

訃報

井上 巽名誉教授

平成30年3月18日逝去 享年82歳

井上名誉教授は、平成9年4月、国際政治経済学部教授として本学に着任。国際政治経済学部長、大学院国際政治経済学研究所長、副学長や、学校法人の評議員、常任理事を歴任された。

坂本和生氏（文37）

平成30年5月23日逝去 享年70歳

坂本氏は、本学卒業後高知県下で高等学校教諭を務められ、県立高校校長を最後に定年退職。平成5年から平成28年12月まで高知県支部長を務められた。

百田和史氏（政経6回卒 高知県）

平成30年7月9日逝去 享年43歳

百田氏は、7月の西日本集中豪雨で遭難し、逝去されました。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

表紙写真

松苓会報の表紙は、現在の二松學舎の姿をお知らせしてきました。1号館から4号館の建物、2号館前の2本の松、夏目漱石アンドロイドも登場しました。今回の写真は、平成30年4月から利用を開始した5号館です。宝来屋さんの二軒隣が4号館、その二軒隣が5号館です。

編集後記

二松學舎松苓会報60号をお届けします。今年度から新たに会則に位置づけられた学生会員について、平成30年度松苓会定期総会記事、附属高校野球部の甲子園100回記念大会出場写真を掲載しました。みなさんも校歌を懐かしく聞かれたことと思います。また、学生会員だよりの頁を用意して、今回は、現在の学生会の活動を書いてもらいました。昔と大分変っているなあというのは、私の感想ですが、今後、学生会員による様々な記事を期待しているところです。正会員の皆様の記事も、事務局にお寄せいただければ幸いです。

二松學舎
松苓会報
No.60

創刊 昭和62年12月1日
発行 平成30年9月25日
編集 二松學舎松苓会
住所 〒102-8336
東京都千代田区三番町 6-16
電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
振替口座 00180-5-160343（郵便局払込取扱票）
印刷 (株)サンセイ



二松學舎大学（松苓会）
ホームページ
松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp